

製品名: GADD34 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11251**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	73kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP1R15A GADD34
別名	Protein phosphatase 1 regulatory subunit 15A (Growth arrest and DNA damage-inducible protein GADD34) (Myeloid differentiation primary response protein MyD116 homolog)
遺伝子 ID	23645.0
SwissProt ID	O75807
免疫原	アミノ酸配列範囲 430~490 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

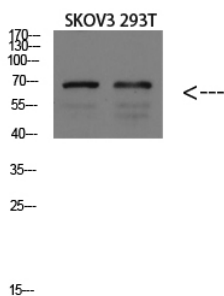
背景

この遺伝子は、ストレス性の増殖停止状態および DNA 損傷因子による処理後に転写レベルが上昇する遺伝子群に属する。電離放射線

によるこの遺伝子の誘導は、p53の状態にかかわらず特定の細胞株で起こり、そのタンパク質応答は電離放射線後のアポトーシスと相関している。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: セリン/スレオニンタンパク質ホスファターゼ PP1 をリクルートして翻訳開始因子 eIF-2A/EIF2S1 を脱リン酸化することにより、ストレス誘導性キナーゼによって開始されたタンパク質合成の停止を逆転させ、細胞のストレスからの回復を促進する。PP1 による TGF β 1 の脱リン酸化を促進することで、TGF- β シグナル伝達経路をダウンレギュレーションする。TP53 の「Ser-15」リン酸化を誘導することにより、アポトーシスを促進する可能性がある。誘導: メチルメタンホルム酸および電離放射線によって。メラノーマ細胞では IL-24 によって。アポトーシスを誘導する。、その他: PPP1R15A-PP1 複合体の EIF2S1 に対するホスファターゼ活性は、小胞体ストレスから細胞を保護する薬剤であるサルブリナルによって特異的に阻害される。、PTM: LYN によってチロシンがリン酸化され、抗増殖活性が損なわれる。、類似性: PPP1R15 ファミリーに属する。、サブユニット: PCNA と相互作用する (類似性による)。LYN および MLL と相互作用する。PP1、PPP1R1A、SMARCB1 と相互作用する。SMAD7 と相互作用する。BAG1 と相互作用する。、

研究分野

画像データ



マウス脳ライセートのウェスタンブロット分析、抗体は1000倍に希釈した。二次抗体は1:20000倍に希釈した。